

きちつとあいさつを

田中良隆

問 住民が望んでいることは職員のアートを良くしてほしい、きちつとあいさつをしてほしいということである。

答 職員の方から、はつきりと、相手にわかる声で「こんにちは」「ごらっしゃいませ」の声をかけるべきである。このコミュニ

今後は徹底する

助役

いのか。



どうする野洲市農業

問 野洲市の面積の4割は農地。農業が地域社会に果たす役割を考えると、農業の担い手は、地域社会の担い手でもあり、その育成・確保は、地域社会の維持のためにも不可欠である。

答 野洲市の農業をどうするのか、担い手についてどうするのか。

積極的に育成

環境経済部長

答 国においては、農地の担い手への利用集積を進め、農地の有効利用・経営の安定・作業の効率化を図ろうとしている。

また、小規模農家、兼業農家には集落営農への取組を進めている。しかし集落営農は、組織の運営や経理などの面

で課題も多い。今後の各種施策の動向を踏まえこれらの動きに遅れることなく、国の方針どおり積極的に取り組む。



市役所受付

家棟川の河川敷地 利用と周辺整備その後

中島一雄

問 通常砂防家棟川改修事業は平成19年3月に完了予定となっている。平成12年6月議会で、辻町側に約3千㎡の河川敷地ができる予定とのこと、高齢化社会への備えとして市民の憩いの場やスポー

ツのできる施設の提案をした。県は敷地の利用は未確定であり今後県及び地元と利用についての協議をしたいとのことだったがその後の対応について伺う。また平成14年9月議会で家棟川隧道の取

り扱いについて1/3を撤去・2/3を残す予定とのことだが現在どの様な状況にあるのか。



河川敷地は憩いの広場、 隧道は解体へ

都市建設部長

答 河川敷地の利用は検討を重ねてきたが地元の方々の集える憩いの広場や健康増進の図れるふれあい広場が適当と考えている。県として跡地利用は考えておらず利用については県から有償で買い取る必要が生じている。財政事情等を勘案しながら今後の計画を策定したい。

震災発生率が公表されたことから県と協議し1/3を撤去することにより残りの部分の耐震性が低下し

危険であることが判明。解体し一時市有地に保管。可能な限り復元保存したい。



家棟川河川敷地

隧道の取り扱いについて現地保存する内容で地元と調整してきた。しかし琵琶湖西岸断層帯の地



水辺事業整備に野洲市湖岸 開発(株)第三セクターの活用を

森田貞雄

建設はどうか

(3)大畑橋下流の土地利用として、対岸のグラウンドゴルフ場が満杯になっており、この建設を提言してはどうか。



湖岸道路沿い24反の空き地

それぞれに対応している

総務部次長

問 中主町より引き継いでいる事業報告書によると、今日まで順調に推移していると判断される。水辺事業の展開を第三セクターである野洲市湖岸開発(株)に委託してはどうかと思うが、今後の具体策を明らかにされたい。

答

(1)当時、県の構想に採択されなかったため検討を進める状態にない。
(2)「エコリゾートの推進」として位置付け、自然環境を学習体験してもらう施設整備の活用方策として掲げている。
(3)県では、当該地に「ピオトープや湾岸等河畔林」の整備計画がされている。マリンスポーツ、フットサルコート、グラウンドゴルフ場の整備を県に要請していく。

(2)10年以上放置されている湖岸道路沿いの空地に「クラインガルテン」の



湖岸地域振興基金の 利活用は

木村定八

昨年合併前の9月議

会で、湖岸地域振興基金の設置が執行部より提案され、湖岸開発の必要性を議員全員が認め、吉川自治会より寄付された5千万円を基金として、設置することが可決された。

吉川地区はもとより、琵琶湖に接する地区の方々も、湖岸開発の期待は大きく「基金の利活用」についてどのように管理・運営されているのかとうと共に、公共や民間施設の誘致の推進、観光や憩いの場の開発等、湖岸開発審議会を市民公募・地元代表・若者・女性・コンサル等を含む住民参加の場を設ける事を提案する。



琵琶湖上空より湖岸を望む

野洲市で基金として 管理している

総務部次長

答 湖岸地域振興基金は、吉川自治会より5千万円の寄付を頂き、野洲川廃川敷地や琵琶湖岸の開発等の資金として設置した。現在野洲市で基金として管理している。本市では琵琶湖岸とその周辺地域は全市民にとって憩いの空間と貴重な観光資源であり、新市まちづくり計画でも「エコリゾートの推進」として主要事業に位置付けている。本年度から「総合計画」や「土地利用計画」の策定に着手しており、具体的方向性が出た時点で、提案の協議の場等、設置も考えていきたい。



大畑橋下流